

平成19年漁況通報（年報）

平成20年2月1日
大阪府環境農林水産総合研究所
水産技術センター

● 巾着網（中部標本船）

○カタクチイワシが7～9月に多く漁獲され、8・9月は特に豊漁であった（図1）。

○コノシロは6～12月に漁獲されたが、変動が大きかった（図2）。

● 船びき網（南部標本組合）

○イカナゴ漁は2・3月に行われたが、漁獲量は平年の半分以下であった（図3）。

○イワシシラスは4～7月に春漁が行われ、6・7月は好漁であった。秋漁は不振であったが、11・12月は一昨年と同じように豊漁となった（図4）。

● **すずき流網**：中部標本船は6～11月に漁が行われ、年間を通じほぼ平年並の漁獲であった（図5）。

● **さわら流網**：南部標本組合のサワらは、春漁は平年並みであったが、秋漁は昨年には及ばないものの8・9月に豊漁であった（図6）。

● **かれい刺網**：中部標本船のマコガレイは、1年を通じて不漁であった（図7）。

● **あなご籠**：中部標本船の漁獲量は、1年を通じて平年を下回り、非常に不漁であった（図8）。

図1

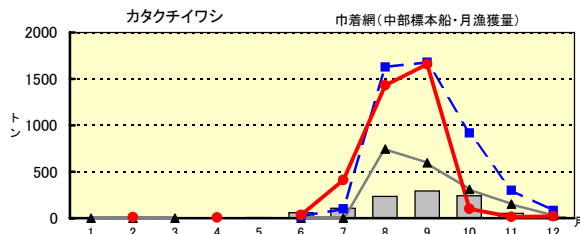


図2

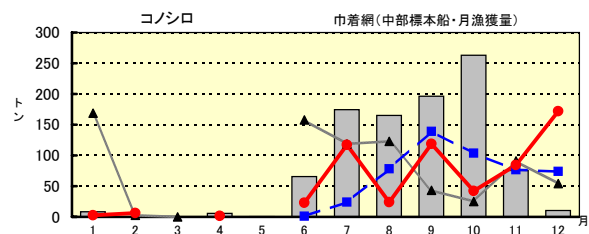


図3

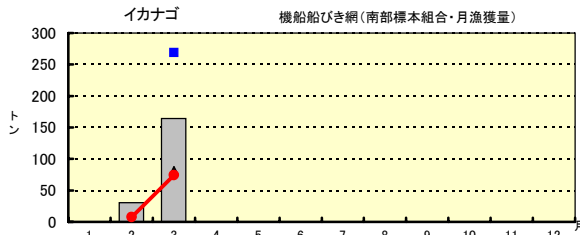


図4

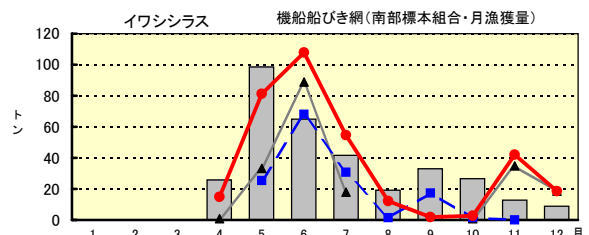


図5

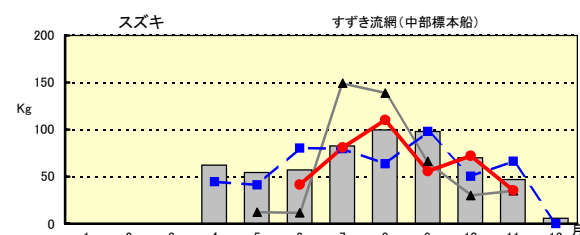


図6

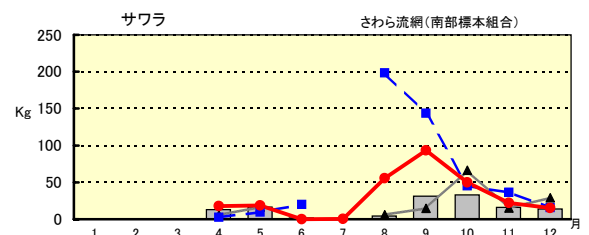


図7

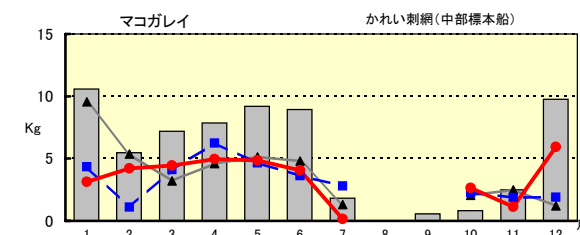


図8

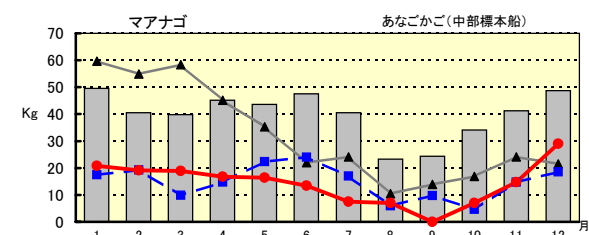


図1・2は標本船の月漁獲量(t)、図3・4は標本組合の月漁獲量(t)、それ以外は1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値 ● 平成19年 ■ 平成18年 ▲ 平成17年

● タチウオひきなわ釣り: 中部標本組合は9～12月に漁が行われ、漁獲は平年を越えた(図9)。

● 小型底びき網

石桁網(中部標本組合)

- マコガレイは1～4月はやや多めであったものの、周年不漁であった(図10)。
- メイタガレイは7月まで平年より多かったが、8月以降は不漁になった(図11)。
- シタ類は8月までは平年並みまたは平年を下回ったが、9月以降大きく増加し豊漁となった(図12)。
- ネズボ類(ガッチョ)は3～6月に豊漁であったが、7月以降不漁となった(図13)。
- マアナゴは、7月に潮押し(貧酸素からの逃避)により大きな漁獲があった(図14)。
- ガザミ(ワタリガニ)は周年平年並みかそれをやや上回っていたが、11・12月は下回った(図15)。
- ヨシエビ(シラサエビ)は、周年平年以下の漁獲であった(図16)。
- クマエビ(アシアカ)は、10～12月に豊漁であった(図17)。
- 小エビ類は8月までは多く、特に6月は大漁であったが、9月以降は不漁であった(図18)。

図9

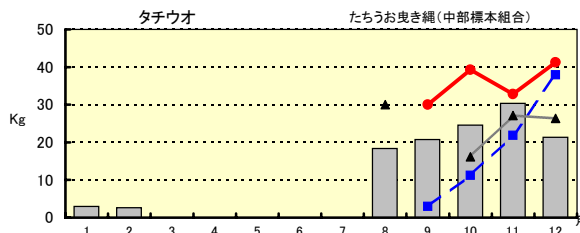


図10

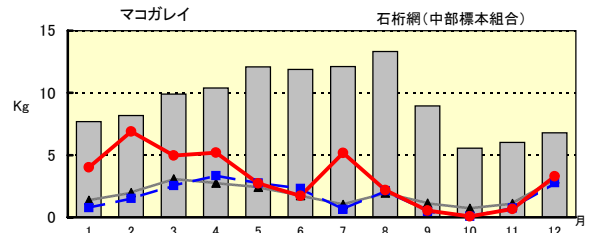


図11

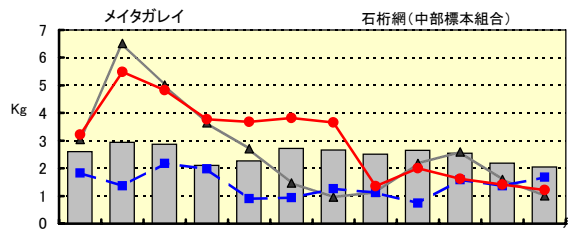


図12

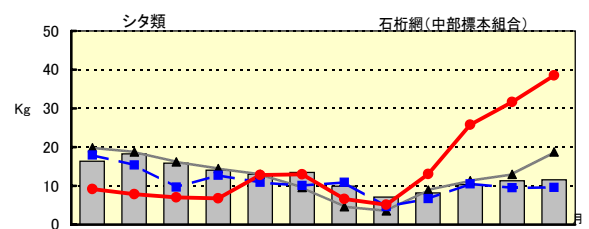


図13

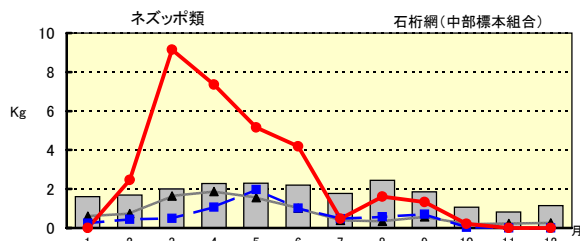


図14

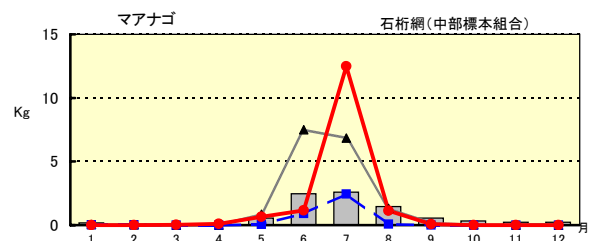


図15

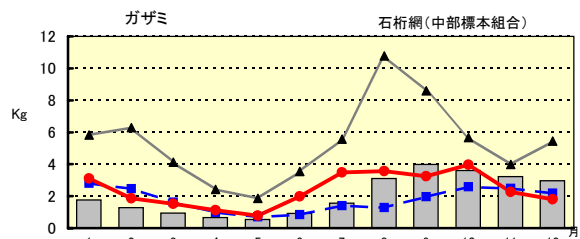


図16

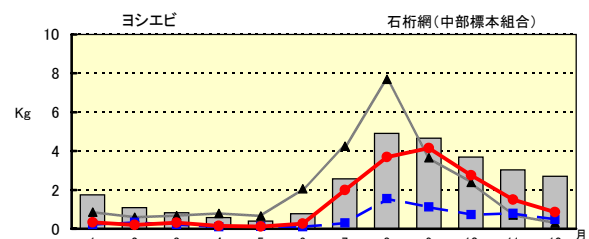


図17

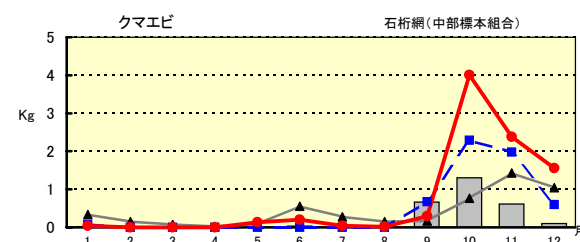
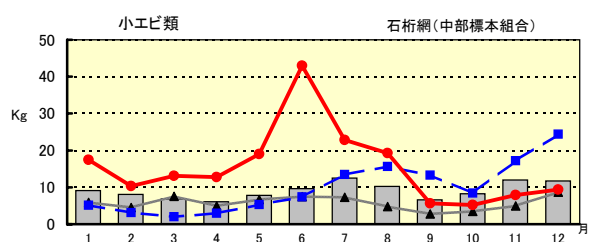


図18



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値 ● 平成19年 - - 平成18年 ▲ 平成17年

- シヤコは6月までは不漁であったが、7月に好漁に転じたものの、11月から再び不漁となった(図19)。
- マダコは7・8月は大漁であったが、それ以外の月はほとんど漁獲がなかった(図20)。
- トリガイは昨年は大漁であったが、貝毒で出荷を自主規制したこともあり、漁獲は低調であった(図21)。
- ナマコは1～4月に豊漁であった(図22)。

板びき網

- 中部のアジ類は、平均すればほぼ平年並みであった(図23)。
- 中部のスズキは4月以降好漁が続き、12月には豊漁となった(図24)。
- 中部のイワシ類(主にカタクチイワシ)は、2～4月に豊漁であった(図25)。
- 中部のタチウオは周年好漁獲で、特に1・2月に豊漁であった(図26)。
- イボダイ(ウボゼ、シズ)は中部・南部とも8月を中心に漁獲され、ほぼ平年並みであった(図27・28)。

図19

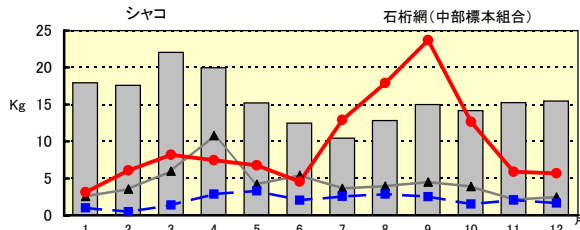


図20

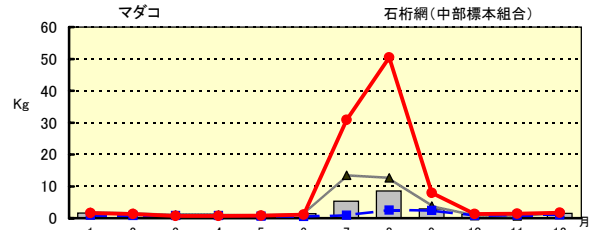


図21

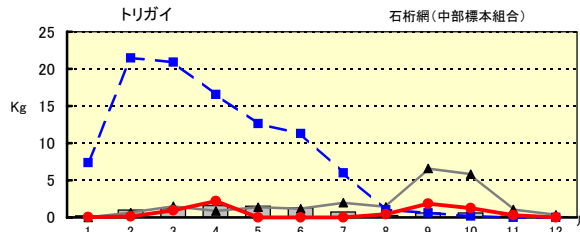


図22

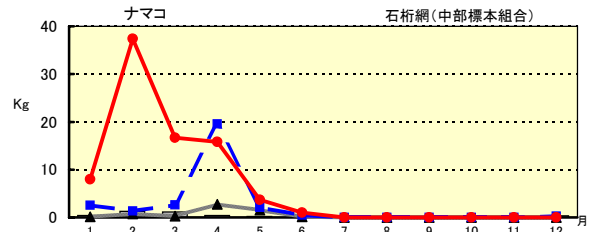


図23

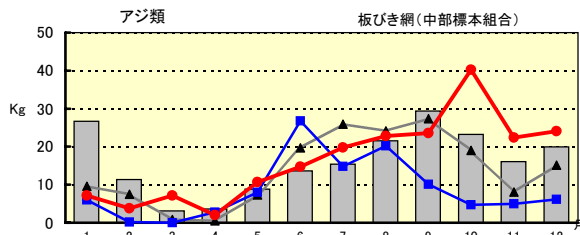


図24

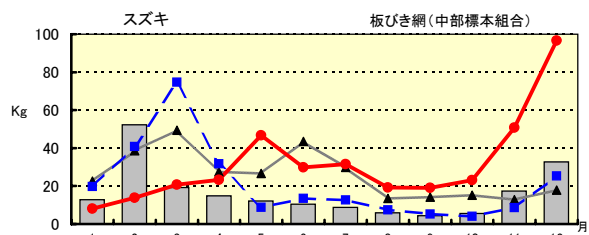


図25

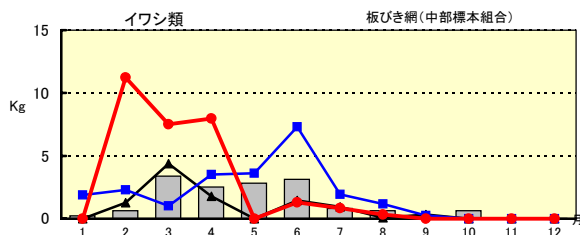


図26

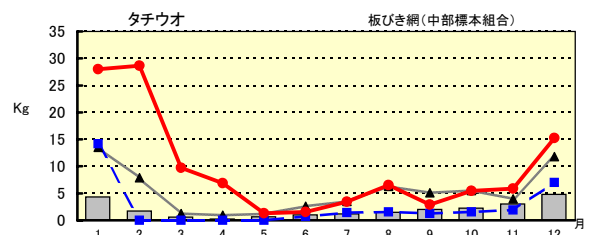


図27

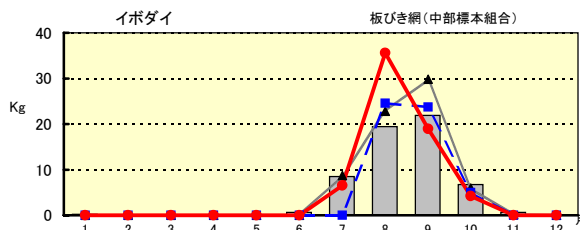
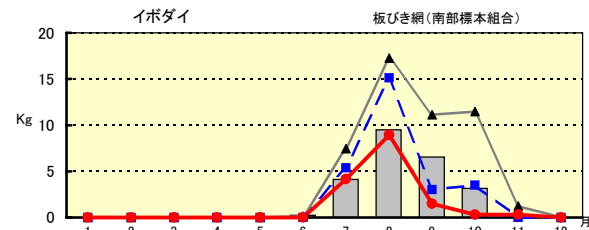


図28



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値 ● 平成19年 ■ 平成18年 ▲ 平成17年

- 中部のマナガツオは周年平年を上回っており、特に10～12月に多かった(図29)。
- 中部のシログチ(クチ)は、8月以降好漁であった(図30)。
- マダイは、中部では4～8月に豊漁であったが、南部は低調であった(図31・32)。
- 中部のクロダイ(チヌ)は近年好調であるが、今年は3～5月と10月以降が特に多かった(図33)。
- 中部のカワハギ類(ハゲ、コウベ)は10月以降多かったが、平年を下回った(図34)。
- ハモは近年多く、中部では8～10月に豊漁であったが、南部は平年を少し上回った程度であった(図35・36)。
- 南部のメイタガレイは、平均すると平年を下回った(図37)。
- 南部の小エビ類の漁獲は低調であった(図38)。

図29

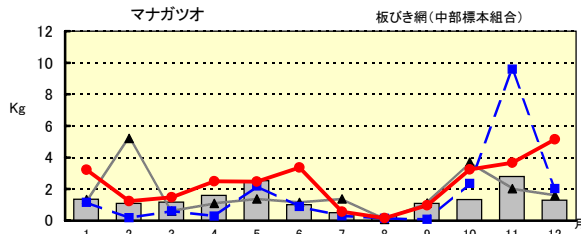


図30

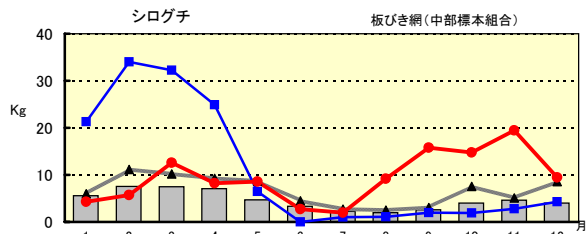


図31

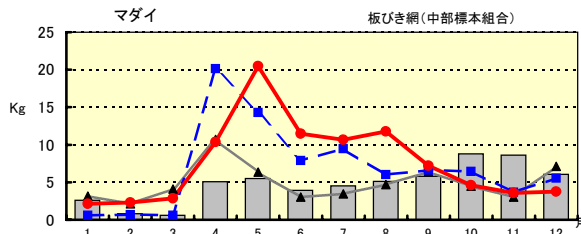


図32

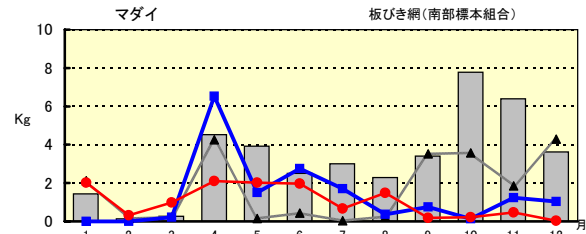


図33

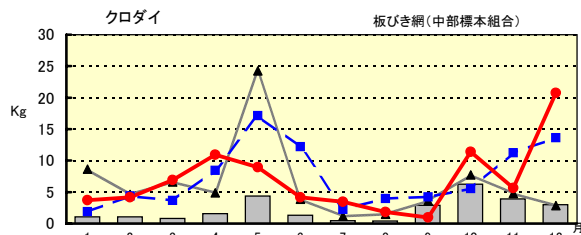


図34

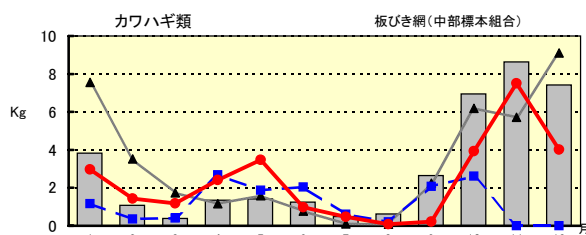


図35

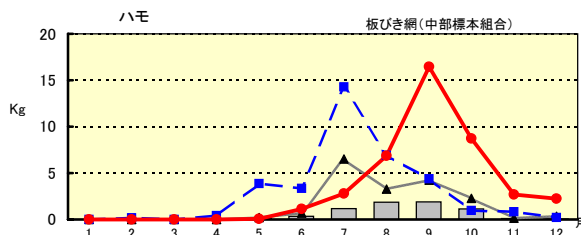


図36

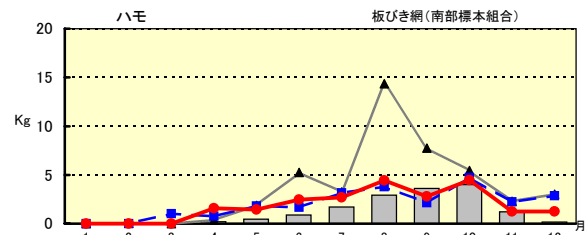


図37

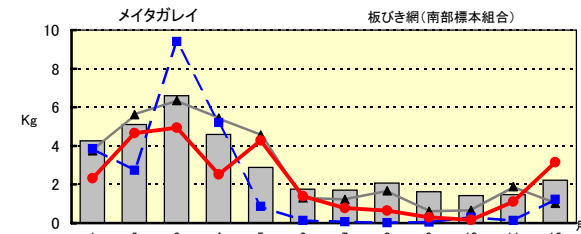
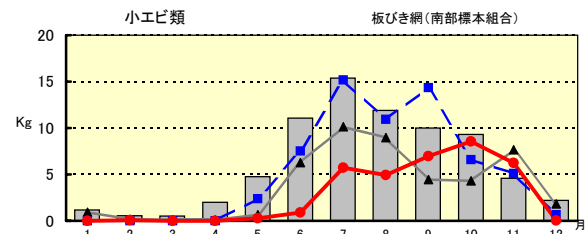


図38



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値 ● 平成19年 □ 平成18年 ▲ 平成17年

○コウイカ類(マイカとシリヤケ)は、中部では10・11月に豊漁であったが、南部は平年並みか平年を下回った(図39・40)。

○中部のジンドウイカ(ヒイカ)は、2～9月に豊漁であった(図41)。

○中部のマダコは、石げた網と同様に、7・8月に大漁であった(図42)。

図39

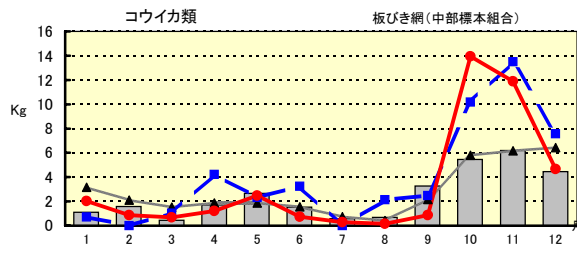


図40

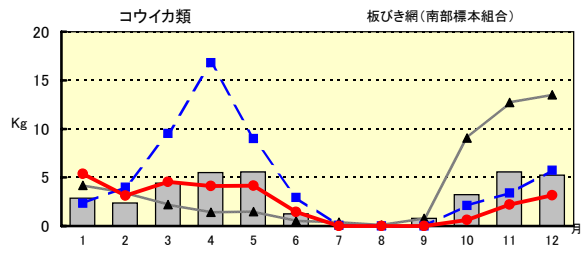


図41

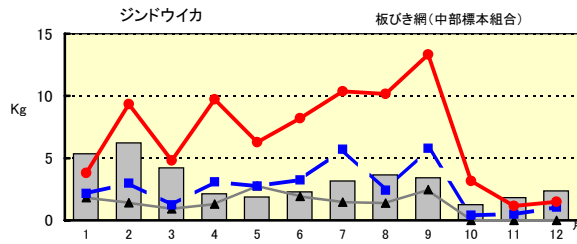
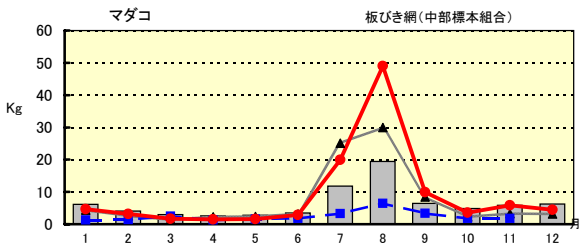


図42



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値 ● 平成19年 ■ 平成18年 ▲ 平成17年